

研究主題 「深い学びの実現に向けた学習過程の工夫」～数学科を軸とした各教科における見方・考え方を働かせた授業づくりを通して～

単元を貫く問い

まちの誇りがあふれる四万十市をめざして!! ～川とともに生きるまち～ 四万十市ブランディング化計画

この単元と関連した領域の付いている力（◆）と内容（・）
 【小学校第6学年まで】
 ◆国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解する。
 ◆地図帳や各種の資料で調べ、まとめる。
 ◆地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現する。
 ・主な自然環境と人々の生活 等

本単元の目標

自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付ける。

学びに向かう力、人間性等

- ・地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現に向けて、ここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。
- ・持続可能な社会づくりの観点から、地域課題を解決しようとするなど、社会参画を意識する。

思考力・判断力・表現力等

- ・地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

知識及び技能

- ・地域的特色や地域の課題を理解する。
- ・自然環境に関わる特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。

この単元からつながっている領域の付きたい力（◆）と内容（・）

【第2学年】
 ◆自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などに関する事象と関連付けて、多面的・多角的に調べ考察し、地域的な特色や地域の課題を捉えることができる。 ・北海道
 ◆地域の人口の分布や動態、都市・村落の機能に関する特色ある事象を中核として、それをそこに暮らす人々の生活・文化や産業などに関する事象と関連付け、人口や都市・村落が地域の人々の生活・文化や産業と深い関係をもっていることや、過疎・過密問題の解決が地域の課題となることなどについて考察する。 ・中国地方 ・東北地方

社会的活動

課題を把握し、解決すべき課題を設定して、課題を追究したり解決したりする 活動

調査や諸資料から必要な情報を取捨選択し、調べ、まとめる 活動

意見交流や情報交換を通して、多面的・多角的に考察し、表現する 活動

<p>導入 方向づけ 【3時間】 〈九州地方の自然環境とそこで生きる人々の生活を通して、人々の地域への思いを考える〉</p> <p>①②自然環境が人々の暮らしに及ぼす影響について理解し、地域の人々の対応や利用について考え表現する。 ・九州地方の自然の特色や課題、人々の生活を知り、地域への思いを知る。 ・自然環境への対応や自然環境を活かした産業や取り組み、生活の工夫を考え、表現する。 ③環境破壊とその克服の取り組み、環境保全について考える。 ・循環型社会やエコタウン事業など、目指すまちづくりに取り組む理由や人々の思いについて考える ・九州地方の地域特色や課題等、基本事項の確認をする。</p>	<p>課題把握 【1時間】（本時） 〈地域の自然環境を中核として、それに関わる特色や課題を見つけ、学習課題（テーマ）を把握する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方の自然環境と人々の関わりから、四万十市の自然とその関わりや地域の人々の思いについて考える。 ・行政の取り組みを知る。 ・課題から単元を貫く問題を設定する。 ・四万十市のこれからのまちづくりについて考える。 	<p>課題追究 グループ活動・意見交流 【4時間】 〈学習課題（テーマ）を設定し、計画を立て、解決に向けて情報収集や考察を行う〉</p> <p>①計画を立てる ・学習課題（どういうブランディングにするか）の設定、役割分担等 ・必要な資料の選択、調べ方や読み取り方など既習した学習を活かす取り組み。 ②③調べる、考察、意見交流 ・「ブランディング化計画」に向けて情報収集 ・資料の比較や読み取り、他地域との関連付け ・聞き取り（四万十市以外の出身の教員の話等） ・他のグループとの意見交流 →新たな気づき、新たな問題、検討 ④他グループとの意見交流 ・他グループとの方向性や関係性等について再確認し、よりよい「ブランディング化計画」を企画する。</p>	<p>課題解決 まとめ・発表 【3時間】 〈地域の人たちへの発信方法を考え、作成、発表する〉</p> <p>①②「ブランディング化計画」のまとめ ・伝える相手を意識して、自分たちの考えや思いをより効果的に表現する方法を考える。 ・比較や図等、根拠を明確にして説得力のある表現、まとめを考え、作成する。 ③地域の方々へ発信 「ブランディング化計画」を振り返り、四万十市への思いやこれからについて考えをまとめる。</p>
--	--	--	---

評価規準

【知】
 ・地域の自然の特色や課題を理解する。
 【思】
 ・自然環境と人々の生活や産業等を関連付けて考えている。

【思】
 ・地域の特色や人々との関わり等、諸事象と関連付けて考えている。
 【主】
 ・四万十市のこれからのまちづくりについて、自分ごととして考えている。

【知】
 ・必要な資料や情報の収集ができる。
 ・既習した内容を取り入れている。
 【思】
 ・収集した資料を比較したり、関連付けて考察している。
 ・根拠を示して、相手に説明している。
 【主】
 ・四万十市のこれからのまちづくりについて、自分ごととして考えている。

【思】
 ・自然環境とそこで暮らす人々の相互関係で成り立っていることをとらえ、表現している。
 【主】
 ・地域の一員として、よりよい社会を考えて伝えようとしている。

見方・考え方を働かせている生徒の姿

自然環境とそこに暮らす人々に着目して、人々の生活・文化や産業などと関連付け、自然環境と生活・文化や産業、災害等との深い関係を考察する姿

地域の環境条件や地域間の結びつきなどに着目して、人間の営みと関連付けて考察する姿

地理的な事象は様々な事象と関わり合って成り立っていることに着目して、地域的特殊性や地域の課題を捉える姿

生徒の実態と指導観

昨年度の高知県学力定着状況調査は全国平均+7.5の結果であり、既習した内容や基本的な語句の理解はできている。また、記述問題にも積極的に取り組むことができ、解答にも空欄がほとんどなく、わからない問題にも最後まで取り組もうとする姿勢が見られた。一方で、問題の意味(何を問われているか)を読み取れていない(読解力の弱さ)、複数の資料を関連付けて考えたり根拠を示して説明したり、条件を満たして相手に伝わるように説明するなどの課題が見られた。

本単元の学習は、日本の様々な地域を地誌的に取り上げて我が国の国土に関する地理的認識を深めていく最初である。そこで自然環境に大きな影響を受け、また自然に働きかけて生活している自分たちの地域について、改めて目を向け地域の現状や課題を知るとともに、地域に愛着をもって自分ごととして「まち」のこれからについて考えさせていきたい。その際、他地域との比較を通して共通点や相違点に気づき、それらを活かすとともに、行政や企業、地域の人々の声を聞き、資料を関連づけて考える力、自分の考えを表現する力をつけていきたいと考える。

【本時の目標】 単元の問題を自分たちで見つけ出し、特色を生かしながら、その課題解決に向けてこれからの活動の計画を立てることができる。(本時 4/11時間)

【本時における社会的な見方・考え方】 資料から見つけた特色や課題に対して、どのような「まち」にすれば課題解決に向かうのかということを考えることで、単元の問題に迫っていく。

問題

まちの誇りがあふれる四万十市をめざして
～川とともに生きるまち～
四万十市ブランディング化計画

①四万十市をどんなまちにしたい? **めあて** 四万十市を誇りある自慢のまちにするためには何をすればいいか考えてみよう

元気なまち 自慢できるまち
みんなが来たいまち
住みたいまち 誇れるまち

↓

仕事がある 交通が便利
人口が増える 観光客が多い
特産物が多い 安全である

②どうのまちになるためには?
→何かをしなければ変わらない!!

まとめ 振り返り

わかったこと 疑問に思ったこと
やってみたことを書く

◎深い学びの実現に向けた「問題」と「めあて」の工夫
本単元は、自分たちの住む地域と他地域を比較する中でふるさとに対する思いの違いに気づき、自分たちで「問題」を設定することで生徒の学習意欲を高め、自分たちの住む地域が今後どうすればいいのかということを考えていく。四万十市を取り巻く様々な課題から単元を貫く問題に迫るために様々な考え方を比較しながら意見交換できるような「めあて」の設定をしたいと考えている。他者の意見から学び、自分の考えと比較することで新しい疑問や課題を見出すことができると考えている。

◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て
四万十市の様々な特色や課題に着目させ、「ブランディング」という計画を立てていく中で様々な事象を多面的・多角的に捉え考察する。その特色や課題から単元を貫く問題に迫っていく。また、他者の意見を聞き比較することで自分の意見を深め、より深い計画を立てさせ課題解決に向けてどうアプローチしていくか考えさせる。

他地域と自分の地域を比較し課題を見つける	問題の共有	めあてを見つけ個人で考え表現する（思・判・表）	まとめ・振り返り
----------------------	-------	-------------------------	----------

【単元を貫く問題設定に向けて、課題を見つける】

T 前時に鹿児島県や沖縄県の人々は、その地域の自然環境とともに生きているという学習をしました。沖縄県では、どのような自然環境をプラスにしてともに生活をしていましたか?

S 美しい海やサンゴ礁、沖縄県固有の動植物などを観光資源として多くの観光客を呼び込んでいる。

T 鹿児島県は、どのような自然環境をプラスにしてともに生活をしていましたか?

S 火山灰でできたシラス台地は農作物も育ちにくいですが、さつまいもを栽培したりして工夫した農作物の栽培を行っている。

S 火山は災害を起こすこともあるが、シラスを利用してプラスチックや瓦などの製品を作って販売したり、温泉などを観光資源として観光客を呼び込んでいる。

T そうでした。そこで今日はそういう自然とともに生きるということに対して自分たちの住む四万十市について考えていけたらと思っています。四万十市の自然といえは?

S 四万十川

T ですよ。必ず四万十川が出てきますね。では四万十川のイメージをみんなだままとめてみましょう。四万十川といえは?

※四万十川を中心にマッピングをしていく

S きれいな川

S 鮎やうなぎ

S 沈下橋・赤鉄橋

S ウルトラマラソン

T 良いイメージが多く出てきましたがマイナス面はないですか?

S それほど全国的にはきれいではない。

S 大雨や津波で洪水の危険もある…。

T たくさん意見が出ましたが、みなさんに質問です。みなさんは四万十川とともに生きていますか?

S …?

T では、このムービーを見てください。

※桜島を誇りに思う鹿児島県の人々のムービーを見せる 2:00

T どうでしたか? みなさんは将来この地を離れたとき四万十川をこういう思いで感じることができるとおもいますか?

S 思えないと思う…。

T それはなぜでしょう?

S あまり関わることが少ないし、今の生活にあまり関係ない。

【課題から単元を貫く問いを設定する】

T 実は四万十市もこの四万十川とともにいきるまちを目指して四万十市環境基本計画というものを市民に向けて出しています。

※四万十市環境基本計画を配布する

T 少し自分で読んでみてください。～2:00～

T どうでしたか? 四万十川とともにこの四万十市も生きていこうという市の考えが分かっただと思います。では、この四万十市をあなたはどんなまちにしたいですか?

S 元気なまち

S みんなが来たいまち

S 住みたいまち

S 自慢できて、誇れるまち

T 具体的にはそういうまちはどういうまちですか?

S 仕事がたくさんあってみんながいきいきしている。

S 交通の便が良くて来やすい。

S 災害対策や治安などの安全性。

S 観光客が多い。

T なるほど。みんなは四万十市にそういうまちになってもらいたいということですね。この単元の問題が見えてきました。この単元をどう問題にすればいいでしょうか?

S 自慢できるまちになってもらいたい。

S 誇りが持てるまちになってもらいたい。

T では、この単元の問題は「まちの誇りがあふれる四万十市をめざして」というのはどうでしょうか?

S いいと思います。

T では、そういう四万十市にするために自分たちに今出来ることは何だと思えますか?

S …

T すぐには思いつかないと思うので例を出してみたいと思います。

※他地域の成功例をあげる

T こういう活動を地域ブランディングといいます。地域やその地域の自然を生かしてブランド化していくということですね。そういうまちを目指すには何かをしないと変わらないということですね。

S 四万十川をブランディング化する計画を作ったら自慢の四万十市になるとおもいます。

T そしたら単元の問題に四万十市ブランディング計画を付け加えてみたらどうでしょう?

S いいと思います。

T では、この単元の問題が決まりましたね。

問題 まちの誇りがあふれる四万十市をめざして!!
～川とともに生きるまち～ 四万十市ブランディング化計画

【例や資料から四万十市をどのようなまちにしたいのか考える】

T では、今日の残りの時間で問題の解決に向けてこの時間にできることは何がありますか?

S 誇りある自慢のまちにするために何をすればいいか考えたい。

T では、残りの時間で例や資料を参考にしてどんなまちになれば誇りの持てる自慢の四万十市になるか具体的に考えてみましょう。

※四万十市の人口ピラミッドの提示

四万十市の産業別人口、過去の災害、犯罪件数、出生率の資料を配布

めあて 四万十市を誇りある自慢のまちにするために何をすればいいか考えてみよう。

※資料から誇りある自慢のまちにするために何をすればいいか個人で考える

T それでは、班で自分の考えを発表して意見交換をしてください。

※班でそれぞれ考えた内容を発表し、意見交換を行い黒板に考えを貼りにくる

※班を指名し発表させ全体で共有する。各班1つにまとめる必要はない

S 観光客が増えて、行ってみたいまちにならないといけなないので四万十川自体を美術館にしてみればどうだろうか?
(大方の砂浜美術館のようにNPO法人を立ち上げて)

S 観光に来た人は、砂浜を見てすごいと思うかもしれないけど、四万十川は奥の方まで行かないと感動は薄いと思う。

S 中村の川はあまり他と変わらないと思う。

S プロのスポーツチームを誘致したら?

S スポンサーがいなくて厳しくない?

S 四万十川テーマパークを作ってみては? スプラッシュマウンテンみたい

S 川の環境破壊につながらないだろうか。

S 住んでみたいおしゃれなまちにすれば人口増加に繋がるのでは?

S おしゃれなまちとは?

S 有名な芸術家とか設計士の人に空き家や古民家を使ったりして、四万十市自体をプロデュースしてもらって全国的に宣伝してもらおうとか?

S その予算はどうするの? S 市役所に出してもらおう。

S そんなことに予算が出るのかな?

T 確かに予算はどの計画でもカギになるよね。それもふまえて今からそれぞれで問題の解決に向けて考えていこう。

<指導上の留意点>
・四万十市の課題に関する具体的な資料に着目させ、これからの四万十市のありべき姿を自分なりに考えさせる。

T 今日の学習では、九州地方の自然とともに生きるという例をふまえて、四万十市について考えることができました。これから、四万十川とともに生きていく、誇りの持てる自慢の四万十市を目指して活動を行っていききたいと思います。最後に今の四万十市の強み、弱みについて自分なりに考えることをまとめとして書いてください。

S 人口がこのまま減り続けることが、益々少子高齢化を招いていくので、なんとか人口増加まではいかなくても維持していけるようなブランディングをしていければと考えました。

S 今の四万十川は、水質、環境面等決して全国に誇れるものではないかもしれないが、この四万十川を誰にでも自慢できる川になるようにブランディングしていきたいと思いました。

S 観光客が減少している理由を検証して、各地の観光客が増えている地域の例などを参考にこの四万十市に活用できるものなどを探して、この町ならではのものを考えたいと思いました。

T 今日は、自分たちのふるさとについていろいろな角度から考えることができました。次の時間から、パソコンや資料を使って具体的に班で四万十市ブランディング計画を立ててもらいたいと思います。その際、実際に地域の企業や市役所、地元の農家や川漁師さんなど話を聞きに行きたい班は是非積極的に行って生の意見も聞いてみてください。

T 今日の振り返りをしてください。

<指導上の留意点>
・授業を振り返ることで、まとめにつなげていく。
・振り返りは、疑問に思ったことややってみたいことに限定し、次の時間につなげる。

<評価標準> 地域の特色や人々との関わり等、諸事象と関連付けて考えている【思】 四万十市のこれからのまちづくりについて、自分ごととして考えている【主】

※ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業においては、学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）に基づいた授業づくりを行っているため、育成すべき資質・能力の 3 本柱による目標及び評価を設定しています。